

# 鋳物くずをリサイクル 土木建築資材に再利用



リサイクルプラントでエコマサを指さす山崎章弘社長＝出雲市上岡田町

産業廃棄物処分量の(株)「ReeFLEX」(リフレックス) (出雲市平田町、山崎章弘社長) は、これまで産業廃棄物として埋め立て処分されていた、精工所

などから出る鋳物のくずをリサイクルし、地域の循環資源として有効活用を図っている。

同社の源流にあるのが、同市平田地区の建設業者10社が2002年に立ち上げた

「たてぬい建設事業協同組合」。旧平田市の古い地名だった楯縫郡(たてぬいごおり)にちなんで命名した。かつて同郡には有能な大工や左官、屋根職人らが多く住んでおり、その技術力の高さは関西や関東にまで知れ渡っていたという。建設業が受難を迎えている現代、地元の先人から受け継いだ技術者魂を発揮し、地域開発に貢献しようと立ち上がった。

着目したのが、鋳物くずの再利用。旧平田市は鋳物鋳造会社の工場を多く誘致しており、産業廃棄物として排出される鋳物くずの量は、国内で7番目の多さ。処分経費は各工場にとって悩みの種となっていた。そこで同組合は、島根県産業技術センターや(財)しまね産業振興財団などと連携して研究開発を進め、鋳物くずをリサイクルして土木建築資材への有効活用に成功した。

ReeFLEXは、現在13社に増えた同組合の事業のうち、鋳物廃砂や、金属の精

ReeFLEX  
(出雲市平田町)

【ビジネスのポイント】  
・産業廃棄物として埋め立て処分されていた鋳物のくずをリサイクルし、土木建築資材として再利用  
・先人から受け継いだ地域の技術力の高さを、循環型社会の確立という形でアピール

錬時に溶融した金属から分離して浮かぶかすのスラグ製品など、リサイクル製品の製造・販売部門を独立させる形で、05年11月に発足した。

主力商品は、道路・造成工事の盛土材や、下水道工事の埋め戻し材として真砂土の代わりに使う再生土「エコマサ」と、上下水道工事の基礎工事に使う砂の代用品になる再生砂「スラグサンド」。いずれも、循環資源を利用した製品の普及と利用促進を図るため、県が制度を創設した「しまねグリーン製品」の認定を受けている。

当初、商品を使用した後の道路は、雨が降ると黒い液体が浮かんでいた。「環境への影響はないもののイメージが悪かったが、改良を重ねた結果、今はほぼ解消できた」と山崎社長。平田地区にできた新出雲風力発電所の建設工事にも携わったが、リサイクル製品はコストが割高になるだけに、出雲市や国、県からの発注がほとんどだ。

現在、同市上岡田町に2カ



主力商品のエコマサ④とスラグサンド

所のリサイクルプラントを構えて商品を準備するものの、公共事業の削減で行政からの発注が減少。加えて景気低迷により、鋳物工場の生産活動も落ち込み、肝心の鋳物かすが入手できない状態になつているという。

「鋳物かすは、出雲市周辺に限らず、中国地方どこからでも受け入れる」と山崎社長。「廃棄物の減量化とリサイクルを進めて循環型社会を構築するためにも、リサイクルを推進する制度づくりが必要だ」と行政に求める。